

第 I 章 研究の概要

1. 研究の目的

2. 研究の方法・内容

3. 研究の経緯

第 I 章 研究の概要

I 研究の目的

近年、障害やその他の要因によって学習活動にさまざまな困難を有する児童生徒が通常学級において教育を受けている、という状況が増えつつあります。しかしながら、そのような児童生徒に対する実際的な教育活動やそれらが有効に行われるための支援体制のあり方については、それぞれ当事校によって模索的に行われているのが現状であると思われます。

本研究は、このような現状に鑑みて、上記のような子ども、特に障害がある子どもに対して、特殊教育と通常教育の連携・協力のもと、一人一人の個や集団に配慮した具体的な教育活動やそのための支援体制が如何に通常教育において展開されるべきかを明らかにしようとするものです。

II 研究の方法・内容

本研究は、実施に当たり教育現場の実際に即し、そこで行われているさまざまな活動に関する課題や工夫について、教育現場で子どもに関わるもの一人一人になるべく沿うような観点からのアプローチを試みました。

そこで、各研究分担者（本研究所の研究者）がフィールドとしている教育現場において研究協力者と共に行った実践（フィールドワーク）を、研究協議（所内会議、全体会議）を通して討議し、そこから得られた知見を基に再度実践に生かしていく、という事例研究を中心とした方法をとりました。

また、障害のある子どもを巡る連携・協力の在り方に関する課題には「障害がある子どもやその保護者」や「学校関係者」や「障害のない子どもやその保護者」や「地域社会の人々」等、単に当事校内のシステムや指導の問題として片づけられない、人々の意識に関する要素もあります。

そこで、教師やその他教育に携わる人々（特殊教育の分野と通常期養育の分野）の間における連携・協力について、「21世紀の特殊教育の在り方について（最終報告）」に掲げられたノーマライゼーションの理念を中核に、その問題点について検討を加え、実践の中にその知見を生かしていくようにしました。

III 研究の経緯

<平成11年度>

5月6日 第1回所内分担者会議

研究の進め方、研究フィールドの確認

7月14日 第2回所内分担者会議

研究フィールドでの実践活動確認

平成12年

1月26日 第3回所内分担者会議

研究フィールドでの実践の報告

3月15日 第1回研究協議会

研究フィールドでの実践報告

「通常学級教師への意識啓発の試み」

戸田淑子（研究協力者）

「通常学級における授業の工夫・課題」

伊尻正一（研究協力者）

「通常学級における子どもへの啓発授業」

豊田弘巳（研究協力者）・久保山茂樹

日本におけるインクルージョン教育の困難性について（プレゼンテーション）

河野哲也（研究協力者）

<平成12年度>

6月21日 第1回所内分担者会議

第2年度の研究の進め方および実践報告

7月7日 第1回研究協議会

「通常学級における聴覚障害を理解するための授業」

田島恵美子（研究協力者）

「肢体不自由特殊学級におけるHさんへの対応」

當島茂登（研究分担者）

「視覚障害教育における児童生徒および教師への支援体制」

澤田真弓（研究分担者）

日本におけるインクルージョン教育の困難性について－障害は個性か？－（プレゼンテーション）

河野哲也（研究協力者）

平成13年

1月29日 第2回所内分担者会議

研究フィールドでの実践の報告

通常学級教員の意識調査実施について

2月14日 第2回研究協議会

「通常の学級における指導形態の工夫」

伊尻正一（研究協力者）

「自分が輝くみんなも輝く学校づくり」

木村光男（研究協力者）

「通常学級に在籍する自閉症児の学校生活」

長塚松美（研究協力者）
小林倫代（研究分担者）
日本におけるタテ型社会と障害をもった人（プレゼンテーション）
河野哲也（研究協力者）

河野哲也（研究協力者）
「校内支援の取り組み報告」
戸田淑子（研究協力者）
「途中失明の子どもに対する支援と課題」
大内進（研究分担者）

平成14年

<平成13年度>

7月5日 第1回研究協議会

今年度の研究計画、報告書作成に向けて
特別な教育的ニーズとは何か（プレゼンテーション）

3月22日 第2回研究協議会

研究の反省、今後の新たな取り組みに向けて
インクルージョンとは（プレゼンテーション）
河野哲也（研究協力者）